

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ意見まとめ

地区	西浦地区	回数	第3回
日時	平成29年12月17日(日) 午後1時30分～午後4時30分まで		
会場	西浦公民館 講堂	参加者数	17名

1. 再配置プランについて期待できることや不安など

■ A案（施設を集中させて地域の拠点をつくるプラン）

【期待できること】

異年齢の子どもたち同士や子どもと大人や高齢者が交流する機会が増え、にぎわいづくりや子どもの成長などにつながることを期待できる。

- ・ 少子化・核家族化の時代なので、園児から小学生、中学生まで歳の離れた子どもたちが交流する機会や、子どもと大人や高齢者が交流する機会が増えることは有意義と思う。現在も中学生は介護施設での職業体験で高齢者と触れ合っているが、日常的に接する機会が増えると思う。
- ・ 生徒同士の交流や刺激が与えられ、子ども自身の成長につながる。
- ・ 保育園と小学校を複合化すると、運動会など行事と一緒に開催できてよい。
- ・ 合同の運動会とすれば人数が増え新しい競技もできて盛り上がりそう。
- ・ いろいろな行事も参加し易くなり、行事が賑やかになって多世代交流も促進されるのではないかな。

1ヶ所に機能が集中することで、小学校と中学校などの異年齢の子どもが一緒に通学したり、利用者も便利になりそうだ。

- ・ 1ヶ所に機能が集中することで、利用者は何かと便利になるので良いのではないかな。
- ・ 自分が子どもの時、兄が中学、妹が小学校、弟が保育園という時代があった。異年齢で一緒に学校に通えると便利。

1ヶ所に機能が集中することで、職員など経費節減ができそうだ。

- ・ 職員などの経費節約が期待できる。

1ヶ所に施設が集約されることで、地区のランドマークとなり、情報が伝わりやすく一体感が生まれそうだ。

- ・ 西浦のランドマークができることで、情報が伝わりやすく、一体感が生まれる。

【不安なこと】

現在の小学校の敷地内に1ヶ所に集約することで、それぞれの機能の規模が十分確保できなかったり、混雑して使いづらくなってしまうのではないかな心配だ。以前小学校の運動場が不足して、保育園を現在の位置に移転させたのに、また戻ってくることは、これまでの

経緯と逆行するのではないか。

- ・ 小中学校のグラウンドや体育館、駐車場などが十分に確保できるのか心配だ。
- ・ いろいろな機能を一箇所に集約すると、使いたいときに使えないとか、混雑するとか、ハード面で部屋が手狭になることがないようにする。
- ・ 一箇所に集約すると、それぞれの施設の広さを十分確保することができないのではないか。
- ・ 小学校の敷地面積では、必要な機能を十分確保できるかが心配。
- ・ 以前、小学校運動場が足りなくなって、保育園が現在の位置に移転した経緯があるのに、また集約するのは、これまでの経緯と逆行するのではないか。今回の公共施設の再配置で、各施設の配置やデザインなどで各施設の規模や機能を縮小することなく、1箇所に集約することができれば良いが。

1つの建物に多様な機能を入れると、動線の確保や安全への配慮など管理運営面で混乱が起きないか心配だ。

- ・ 建物1棟の中に多様な機能が入ると、人の配置や管理運営面で混沌としないか不安。
- ・ いろいろな機能が一箇所に集まっていることで、同じ時間帯に人の出入りが集中してしまい、動線確保など安全上懸念がある。
- ・ 建物のデザインなどを工夫しても、出入口の集中を回避することは難しいのではないか。

1ヶ所に機能をまとめると、建設費や管理運営費などがかえってコスト高になりそうだ。

- ・ 建物を工夫して集約すると、かえってコスト高になり、公共施設集約の目的が達成できないのではないか。

機能が集まり多様な人たちが利用することになると、中学生の学習環境など教育の環境を保つことができるか心配だ。

- ・ 地域交流の場と教育の場の棲み分けが不安。
- ・ 保育園の園児が騒がしいと、中学生の学習に支障とならないか心配だ。

中学校敷地を、津波時の避難場所として活用できないことが心配だ。

- ・ 中学校敷地を津波時の避難場所として活用できないのが心配だ。(小学校でも津波時の避難所として活用できれば、問題ないが)

1ヶ所に集中することで、アクセスしやすい人としにくい人の格差が広がるのではないか。

- ・ 一拠点に集中することで、交通格差が拡大する。

【その他】

特に若者世代が集まりやすくなるようなハード面でのレクリエーション機能の充実を図ってほしい。

- ・ 多世代の中でも特に若者世代が集まるような工夫が必要。ボルダリングとかハード面でのレクリエーション機能を充実させるとよい。

■ B案（多世代の交流拠点と教育の拠点をつくるプラン）

【期待できること】

公民館と保育園が複合化することで、園児と高齢者、園児の保護者などの交流や公民館の利用促進が期待できる。

- ・ 公民館と保育園が複合化すると、園児と高齢者が日常的に交流できてよい。
- ・ 保育園と公民館を統合すれば、保育園を使っているお母さんが公民館の活動を利用してくれることが期待できる。
- ・ 異年齢の人たちの交流が出来る。
- ・ 公民館は、担当所管が講座など中身をコントロールすれば、規模が足りないという状況は起きないだろう。現在の利用状況からすると、公民館の施設が十分まかなえているようだ。

中学校が津波時の避難所として活用できる点が良い。

- ・ 中学校敷地を津波時の避難所として活用できるのがよい。
- ・ 中学校は高台にあり災害時の避難所としても有効なので、売却などせずに公共施設として活用できると良い。

児童館は築年数が比較的浅いので、引き続き有効活用できる点が良い。

- ・ にしうら児童館は、新しいので壊す必要がないと感じている。今ある施設を有効活用する点で評価できる。
- ・ 児童館は建物が新しいのでまだ使える。

中学校は高台にあり、景観スポットでもあるので、そうした環境を生かしたい。

- ・ 西浦中学校には良好なサクラ並木もあり、再編後も残しておきたい景観スポットである。
- ・ 将来のある子供達に高台から町をながめさせて、まちについて考えさせることは町への愛着が育まれて良いと思う。

【不安なこと】

高台に小学校が移転することで、低学年の小学生は通学が大変になりそうだ。また、人家や街灯も少なく安全上懸念がある。

- ・ 小学1年生が、西浦中学校の場所まで通うには坂があって大変である。
- ・ 高台に小学校が移転することで、通学路の不便がある。
- ・ 高台にあるため、小学校の低学年は通学しづらいのではないかな？
- ・ 高台に小学校が位置することになり、児童にとっては通学するのに遠い。

- ・ 中学校の敷地周りは緑も多く自然豊かではあるが、夜になると外灯も少なく、防犯上好ましくない。
- ・ 通学路に民家が無いので、見守る目が少なく、安全性の面で不安がある。
- ・ 通学が安全面で心配。

最初のうちは中学校敷地まで小学生が通うのは大変そうだが、慣れれば負担は少なく、子どもたちの鍛錬にもつながるのではないか。

- ・ 資料に課題として記載されている小学生の高台への通学の負担増について、さほど問題とは思わない。慣れれば負担は少ないと思う。
- ・ 西浦中学校へ小学生が通学するには、多少の不便さはやむを得ない。逆に子どもたちの足腰が鍛えられて良い。

通学の負担がどれぐらいになるのか、児童の居住地などから判断したい。

- ・ 通学の負担の多い子供がどのくらいいるのか人数を具体的に提示してもらえると大変さが実感できる。

小学校敷地と中学校敷地の2ヶ所を使い続けるため、将来負担の縮減にはあまりつながらないのではないか。

- ・ 小学校敷地と中学校敷地の2箇所を使って、集約するため、将来負担はA案やC案よりもやや多くなりそうだ。D案ほどではないだろう。
- ・ 保育園と公民館の複合化だけでは土地がもったいない。

小学校と中学校を集約すると、グラウンドが狭いため、部活動に影響が出そうだ。

- ・ グラウンドが狭いため、人数が多くなると部活動に影響が出そう。

【その他】

児童クラブが小学校のそばにあれば、児童館の位置は特に問わない。

- ・ 児童クラブは、小学校のそばに合った方が良いだろうが、児童館の位置は問わない。そうした点では、児童館は利用年齢に近い保育園に近い位置にあっても良いと思う。

■ C案（西浦中学校を形原中学校に編入するプラン）

【期待できること】

1ヶ所に集約されることで、多世代の交流や利用者の利便性が期待できる。

- ・ 1か所に機能が集中することで、利用者は何かと便利になるので良いのではないか。
- ・ いろいろな行事も参加しやすくなり、行事が賑やかになって多世代交流も促進されるのではないか。

中学校の生徒数が増える事で、学習や部活動、生活面での活発化が期待できる。

- ・ 生徒数が増えることでより多くのことを学べる。
- ・ 生徒数が増えることで、中学生生活が活発になるだろう。

- ・ 部活動の選択肢が増えることがよい。
- ・ 西浦中は人数が少ないことで学力の面での不安があり、形原と一緒にするのはいいかもしれない。実際通学区域外の中学校に行っている子どももいる。

もっとも将来負担の縮減が期待できる。

- ・ 将来負担（コスト）が最も少ないと考えられるため評価できる。

【不安なこと】

形原中学校まで遠いため、スクールバスや路線バス路線の変更など通学手段を確保する必要があるようだ。また自転車で通学するにも、道路の整備や安全上の懸念もある。

- ・ 形原中学まで遠い地域ではスクールバスなど通学手段の確保が必要になる。
- ・ 西浦中学校を形原中学校に編入させると、通うのに時間がかかる。道路が整備されておらず、自転車で通うにも中学生が危険になる。
- ・ 南側に住んでいる子ども達は、形原中まで通学するのに行くのに大変になる。アクセス解消として、あわせて路線バスの運行の改善が必要だと思う。
- ・ 部活がないので、形原中学校に統合という話もあるが、西浦中学校で部活を楽しんでいる生徒にとっては、通うのが不便になって困るのではないか。
- ・ 通学時間の差があり、部活動を行う上で、あまりにも不公平がある。親の負担も増す。
- ・ 地区毎に通学している時期は良いが、部活動をはじめて個々で登下校するようになると遠くて不安。
- ・ 中学校の敷地周りは緑も多く自然豊かではあるが、夜になると外灯も少なく、防犯上好ましくない。
- ・ 形原中学校まで通学するのは遠すぎる。
- ・ 通学路の整備ができるのか不安。

スクールバスはコストもかかる。中学生に多少の不便は仕方ないだろう。

- ・ スクールバスまでは必要がないだろう。別途費用もかかり、中学生にとっては多少の不便は仕方ないだろう。

西浦中学校がなくなると、将来西浦地区に中学生が増えないことを認めてしまうことになってしまい、さらにファミリー世帯が他地域に移ってしまうことが懸念される。

- ・ 西浦中学校が無くなるのは情的に寂しい。西浦地域に将来中学生が増えないことを認めたことになってしまい、将来に対する後ろ向きな対応で希望が持てなくなる。
- ・ 西浦の地域性が失われるように思う。
- ・ 中学校も西浦地区になくなり、1箇所にとめるC案は、西浦が将来発展することを否定しているようなイメージがあり、受け入れられない。西浦は津波も少なく、マリンスポーツも盛んなので、これから発展し、人口が増える可能性があると思う。
- ・ 子育て世代が新居を建てる際に、西浦から形原に移住する人が増えそう。

中学校は防災拠点として整備されているので、なくす必要はない。

- ・ 西浦中学校は、防災拠点として整備されているので、なくす必要はない。

西浦地区と形原地区は地域性が異なるので、1つの中学校に統合すると子ども同士などの対立が懸念される。

- ・ 西浦と形原では地域の人考え方が違いすぎる。
- ・ 地域性が違う2つのエリアの子ども同士の対立が心配。
- ・ 形原と西浦では地域住民の気質が違う。形原中学校区に近い生徒は編入することも考えられるが、西浦中学校の全生徒が形原中学校へ編入するのではなく、校区再編も含めて検討した方がよい。

【その他】

特に若者世代が集まりやすくなるようなハード面でのレクリエーション機能の充実を図ってほしい。

- ・ 多世代の中でも特に若者世代が集まるような工夫が必要。ボルダリングとかハード面でのレクリエーション機能を充実させるとよい。

■D案（学校を中心とした2つの拠点をつくるプラン）

【期待できること】

中学校と小学校の2ヶ所が防災拠点として活用できる点が良い。

- ・ 中学校敷地を津波時の避難地として活用できるのがよい。
- ・ 西浦中学校は非常時発電システムもあり、残す価値がある。
- ・ 高い所と低い所に異年齢・年代交流のまちの拠点ができるのは防災面で良い。

中学生と地域の人が交流できることで、互いが刺激を受けることができそうだ。

- ・ 小学生では、地域の人とコミュニケーションができない。中学生は、地域住民との接点をとるのに、ちょうど良い年齢だ。異年齢の交流の点で、公民館と中学校の併設は良いと思う。
- ・ 現在使われていない実習地などは高齢者施設などを建設し、西浦地域の人が住み続けることができるようにし、高齢者も中学校に併設されることで若者の刺激を受けることができるような取組はできないか。

【不安なこと】

高台に公民館が移転されると、高齢者はアクセスしづらく、利用者の負担増や利用者減が懸念される。

- ・ 丘の上に公民館機能を移転させると、高齢者の利用を考えると移動が大変で無理がある。アクセスの不便なところに配置するのはよくない。
- ・ 高齢者にとって、高台に公民館があると、アクセスが大変そうだ。

- ・ 公民館が高台に移転すると利用者の負担が大きくなる。
- ・ 高台に高齢者が行くのは不便ではないか。
- ・ 公民館を高台にすると高齢者が行きにくくなる。
- ・ 高齢者にとって交通の便が悪く、公民館の利用者が減ると思う。

中学校と公民館が複合化してもあまり交流には期待できない。

- ・ 中学校と公民館を複合するメリットがあまりないと思う。高齢者と中学生が交流するか？

将来負担が最も大きくなりそうだ。

- ・ 将来の負担（コスト）が最も大きくなりそうだ。

小学校と中学校を一貫化することで、教育の質の担保や将来負担の縮減を目指したい。

- ・ 現状教職員の負担が大きい。小中一貫ので効率化できるところはした方が教育の質が担保されると思う。

2. 各案共通の期待したいこと、心配なこと（付帯事項）

■人が集まる空間

道の駅のような地域の観光拠点やマーケット、コミュニティカフェなどの地域拠点となる機能ができる空間ができるとよい。

- ・ 公共施設の再編にあわせて、道の駅のような地域の観光物産を売る拠点ができると、地域観光産業の活性化に役立ち、農家や高齢者など出品者の生きがいにもなる。
- ・ 既存施設の再編の視点だけでなく、コミュニティカフェや朝市ができる場などの新しい地域拠点機能を、今回の再編に合わせて設けるようにしたい。
- ・ 電車でマーケットとして活用し、駅にしばらく停車して、買い物したり、交流できるようになっている事例を聞いた。移動販売やマーケットや人が集まることのできるような空間ができるとよい。

■空いた土地や建物の利活用

児童館の建物は築年数が浅いので、コミュニティスペースなどとして活用したい。

- ・ 比較的新しい施設（児童館や公民館南館）は、転用してでも活用してほしい。
- ・ 児童館の建物を再活用するならば、第二公民館のように使うのもよい。「橋田の家」のようなカルチャースクールなど生涯学習や住民交流の場として活用するとよい。保育園跡地は借地ではあるが、そのままお借りして高齢者が気軽にお茶が飲めるようなコミュニティスポットとして整備する。（第2公民館みたいなもの）
- ・ 児童館は場所が離れており、複合施設との連携は難しいが、保育園跡地の活用と同じようにコミュニティスポットとして活用してはどうか。

中学校敷地は、福祉施設や企業・教育研修施設などを誘致してはどうか。

- ・ 中学校敷地は高台にあり景色も良い。老人ホーム的な福祉施設を整備してはどうか。
- ・ 中学校敷地、及び建物が使えるのであれば、西浦内外の企業や学校などの教育研修関連の合宿所として利活用してはどうか。地域のボランティアのお手伝いや一部雇用を生むきっかけとなるかもしれない。

■消防署・派出所

観光地にも近いので、複合施設の整備にあわせて、消防署や派出所など防犯機能の強化が必要だ。

- ・ 複合施設の整備により派出所機能の再配置など、あらためて防犯機能の強化が必要となる。
- ・ 説明では犯罪が減っているとのことだったが、西浦温泉という観光地が近く、届け出をしていない犯罪も起きていると思う。交番、消防署は将来的にはあった方が良い。
- ・ 実際の犯罪・事故件数の実態は変わらなくても、派出所・消防署がなくなったことへの不安感はある。公共施設の再編に際して、地域の治安・安全については大きな課題。

■災害時対応

災害時に仮設住宅を建てることを想定しているプランになっているのか疑問だ。

- ・ 今回の案で、災害時に仮設住宅を建てる場所が想定されているのか。

避難所の数が少ないので、民間の建物との協定も視野に避難所を点在して確保してほしい。

- ・ 避難所の数が少なく、高齢者にとっては津波などの時に高台に逃げることも大変になる。民間のビルやマンションとも協定を結ぶなどして、避難所を点在して確保してほしい。

■人口増の取組

公共施設だけでなく、団地造成・市営住宅の建設など人口増加に向けた取組もすべきだ。

- ・ 団地の造成・市営住宅の建設等人口増の取り組みを一方ですべき。

■地区利用型施設の縮減について

西浦地区に、これ以上公共施設を減らす必要はない。

- ・ 元々西浦地域には、最低限の公共施設しかないのに、これ以上減らす必要があるのか。

3. 評価の視点について

②人口減少・少子高齢化社会への対応

若者の利活用のしやすさを評価項目に加えてほしい。

- ・ 若者（10代～30代）の利活用のしやすさも入れてほしい。

③教育環境の適正化

対象となる学校や施設の利用実態をもとに評価したい。

- ・ 対象施設の現在の利用状況や現場の声など実態を把握せずに判断できない。とくに小学校や中学校には現在縁がなくなってしまうので、教育環境の現状を報告してほしい。

④災害時の対応

ミサイル対策を勧告し、防空壕の設置について評価項目に加えたい。

- ・ ④災害時の対応について、北のミサイル対策などを勧告し、防空壕の設置の視点がいるのではないか。

⑦運営の改善

多様な人が集まることによる防犯上のリスクを評価項目に加えてほしい。

- ・ 複合化することにより、多様な人が集まることによる防犯上のリスクが懸念されるため、防犯上のリスクを評価項目に加えてほしい。

■視点の追加

地域の雇用促進や来町者増加などの経済的な効果も評価の視点に加えてほしい。

- ・ 地域の雇用促進や、来街者増加など経済的な効果を評価の視点に加えてほしい。

■全般について

評価項目は妥当である。

- ・ 評価項目は妥当だと思う。

機能の複合化の組み合わせ方によって、得られる交流促進や教育環境の向上の効果の違いを評価に反映してほしい。

- ・ 保育園と小学校、保育園と公民館のように施設を複合化することで、交流促進や教育環境が向上するなど、組み合わせによるメリットを評価に反映できるとよい。

地区の活性化や人口減少・少子高齢化社会への対応がもたらす効果を評価の中で重視したい。

- ・ ①地区の活性化、②人口減少・少子高齢化社会への対応といった西浦のまち全体への波及効果についての視点を重視してほしい。

4. その他（質問や進め方について）

■ワークショップの進め方

- ・ 第1回、第2回で議論した公共施設以外の「企業誘致」「名鉄の廃線」「地域のお祭り行事」等について、もっと掘り下げた議論をしたかった。
- ・ ワークショップの2回目から3回目への展開が早すぎるのではないか。西浦のまちの将来について議論を深め、具体像を描くなどしたうえで、公共施設について話をしたかった。5回のワークショップだけで足りないのなら回数増やしてもよいと思う。
- ・ 複合施設の整備によって生じる空いた土地や施設の再活用もあわせて検討したい。
- ・ これまで総代以外の人でまちを考える機会がなかったので、今回のワークショップは良い機会になっている。形式的に意見を聞くだけの場にはしたくない。

■情報提供

- ・ 違う地区同士学校が統合した場合や地域交流拠点と教育空間が複合した場合、他の先行事例での運営上のメリット・デメリットが分かれば知りたい。

■当事者の意見や利用実態

- ・ 再配置プランについて、子どもたちの意見も聞きたい。
- ・ 児童館の利用実態を知りたい。
- ・ 子どもの居住分布がわかれば、通学路の面での学校立地の検討が具体的に分析できる。

■オープンハウス

- ・ 銀行などのアイデアも出ていたのに反映されていない。もっといろいろな場所で開催し、いろいろな立場の人に意見を聞き、公共施設の再配置に関心を持ってほしい。

■今後のスケジュール

- ・ 今回塩津地区と西浦地区でワークショップがスタートしたということは、一番最初に再配置に着手するということなのか確認したい。